

青森県…サンタ・カタリーナ州（ブラジル連邦共和国）

Santa Catarina, Federative Republic of Brazil

1 提携年月日 昭和55年10月23日（友好協定書調印の日）

2 州の概況

サンタ・カタリーナ州は、ブラジルの南部に位置し、東は大西洋、西はアルゼンチンに隣接している。面積は約96,000km²で青森県の約10倍の広さを有しており、人口は約611万人、州都はフロリアノポリスである。

気候は、全般的に温和であるが、雨季と乾季があり、一部地方では降雪もある。州内には、緑豊かな牧草地帯、変化に富む海岸線、渓谷などがあり自然景観に恵まれている。

産業は、農業、牧畜業、鉱工業が盛んである。

農業では、国内第一位の生産量を誇るりんごを始めとし、にんにく、たまねぎ、じゃがいも、とうもろこし、マテ茶などが中心となっているほか、牧畜業では、肉牛・乳牛の飼育や乳製品の生産が行われ、水産業は、養殖事業が進みつつある。

同州は、ブラジルで工業が最も発展している州であるとも言われており、国内最大の炭鉱では、金、銅、鉄、水銀、亜鉛、大理石などを産出しているほか、近年、近代的な工場が立地するようになってきている。

3 友好提携までの経緯

本県では、戦前・戦後を通じてブラジルに移住する県民が多く、古くから、本県と現地の県人会等との交流が行われていた。

サンタ・カタリーナ州との交流は、りんごが取り持つ縁で交流が始まっており、サンタ・カタリーナ州副知事及び法務長官の来県による友好協定締結に至っている（昭和55年10月23日）。

4 交流の現状

本県とサンタ・カタリーナ州の間では、これまで、県・州代表団の相互訪問、りんご栽培技術専門家の派遣、りんご・水産技術研修員等の受入れ、サッカー・コーチの招へい、児童・生徒絵画作品の交換、ブラジル珍魚の受入れなどの幅広い交流を行っている。

こうした交流の中、同州のりんごの質・量の向上に本県のりんご栽培技術が大きく貢献した。

5 交流の主な動き

- 昭和54年 2月 りんご栽培技術専門家をサンタ・カタリーナ州へ派遣
55年10月 サンタ・カタリーナ州と県州友好関係成立宣言の調印（青森市）
12月 りんご栽培技術専門家の派遣（延べ4回派遣）
56年 2月 児童生徒絵画展（以降継続して実施）
11月 りんご技術研修員の受入れ（延べ8名受入れ）
57年11月 ブラジル珍魚の受入れ
59年10月 知事がサンタ・カタリーナ州を表敬訪問
60年 6月 サンタ・カタリーナ州知事一行が来県
61年 1月 水産技術研修員の受入れ（延べ4名受入れ）
63年 3月 建設関係技術研修員の受入れ
平成 元年 6月 流通関係技術研修員の受入れ
8月 サンタ・カタリーナ州副知事一行が来県
10月 知事がサンタ・カタリーナ州を表敬訪問
2年 8月 水産技術調査者の派遣
5年10月 サンタ・カタリーナ州知事一行が来県
6年 8月 知事がサンタ・カタリーナ州を表敬訪問
7年 7月 農林業技術研修員の受入れ
9月 林業技術専門家の派遣（平成9年まで3カ年計画）
10月 サッカー・コーチの招へい（延べ4回招へい）
8年10月 サンタ・カタリーナ州知事一行が来県
10月 林業技術専門家の派遣
9年10月 林業技術専門家の派遣
10月 副知事がサンタ・カタリーナ州を表敬訪問
10年 7月 サンタ・カタリーナ州副知事一行が文化観光立県宣言式典に出席
8月 林業技術研修員の受入れ
11年 8月 出納長一行がサンタ・カタリーナ州を表敬訪問
9月 りんご技術研修員の受入れ（JICA事業）
9月 林業技術研修員の受入れ（JICA事業）
12年10月 サンタ・カタリーナ州農牧研究・普及公社総裁来県（JICA事業）
14年 4月 りんご技術研修員を受入れ（JICA事業）
16年10月 知事がサンタ・カタリーナ州を表敬訪問
17年 7月 水産技術研修員を受入れ
19年 7月 建築技術研修員を受入れ
20年 7月 りんご技術研修員を受入れ
29年 3月 サンタ・カタリーナ州知事一行が来県